



Harmony

特集

地域共生社会における当院の役割

- 1 ● 地域共生社会を目指して
障害を抱える方へ質の高い医療を提供します
- 2 ● 発達障害に最適な支援を小児療育センターが提供します



病院の理念 | 私たちは"真に病院らしい病院"を目指します

病院の基本方針

私たちは生命の尊厳と人権を尊重し、地域の皆様に信頼される病院であるよう努めます。
私たちは皆様に質の高い医療を提供するために知識・技術の向上に努めます。
私たちは感性をみがき、感謝の気持ちを大切に、皆様と感動を共有できるよう努めます。

地域共生社会を目指して障害を抱える方へ

Feature

質の高い医療を提供します

●地域共生社会を目指して

近年、少子高齢化が加速する中、保健・医療・福祉の分野で新たに「地域共生社会」という概念が掲示されています。地域共生社会は“高齢者・障害者・子どもなどすべての人々が、一人ひとりの暮らしと生きがいを共に創り、高め合う社会”と定義されています。誰もが住み慣れた地域で生活ができるためには、高齢者だけでなく障害者・子どもなど地域で暮らす全ての方の多種多様な課題への対応が必要です。

当院では様々な機能を持った病棟や小児療育センターを併設し、地域で問題を抱える方々の支援を行っています。医療的に入院が必要であれば病棟で対応し、また介護疲れなどで介護者の休息が必要な場合はレスパイト（一時的）入院の受け入れも行っています。

発達障害につきましては、当院の小児療育センターで個々に沿った対応方法を提供しています。

患者さんの自立を支援し質の高い医療の提供に努め、地域の誰もが安心して暮らしていけるよう、地域共生社会の実現を目指していきます。



●障害者施設等一般病棟のご紹介

当院の「障害者施設等一般病棟」は症状が慢性で重度の障害を抱える患者さんの長期入院をお受けする病棟です。長期にわたり入院される患者さんがより快適に療養生活を送ることのできるよう療養環境を整え、きめ細かい対応を心がけております。入院対象となる疾患についてですが、下記の表にまとめました。

入院の対象となる方
・重度の身体不自由者 (脳卒中後遺症・認知症の方を除く)
・脊椎損傷等の重度障害者 (脳卒中後遺症・認知症の方を除く)
・重度の意識障害者
・筋ジストロフィー患者
・神経難病患者

ただし、状況に応じて治療が必要な方だと判断した場合は柔軟に対応させていただいています。詳しいことをお聞きになりたい方は、入退院支援センター（外来棟 1F）までご相談ください。

●レスパイト入院のご案内

在宅で療養生活を送っておられる患者さんや、ご家族を支援する力となれるように当院ではレスパイト入院の受け入れも行っています。患者さまが住み慣れた地域や在宅での生活を継続していくためには、介護者であるご家族に休息をとっていただくことは重要です。レスパイト入院は住み慣れたご自宅、地域で医療や介護のサービスを受けながら過ごすことにより、自分らしく生きることにつながる選択の一つです。お問い合わせ・お申し込みは入退院支援センター（外来棟 1F）までご連絡ください。

●障害者施設等一般病棟の看護ケア

障害者施設等一般病棟では、意識障害や神経難病、肢体不自由などの患者さんが常に90%以上の割合で入院されています。病院の特色でもある透析患者さんが現在では約半数、長期療養されていますので透析センターと常に密に連携を取り安心した療養生活が送れるよう努めています。

入院患者さんのほとんどが全介助を要しており、意識障害から意思の疎通が困難な状況でもあります。日々、食事・排泄・清潔面に配慮して、患者さん個々にあったケアを考え、チームで協力しあいながら看護・介護を行っています。常に患者さんに接するときは笑顔を忘れず、一つひとつのケアに声をかけながら、安心して過ごしていただけるよう努めています。また、ご家族に対しても患者さんの日ごろの状況等お伝えすることで少しでも安心していただけるようコミュニケーションを図っています。

●多職種協働で質の高い看護ケアを提供します

患者さんの看護ケアにおいては多職種協働が欠かせません。長期入院においてもADLの向上や廃用症候群の予防・排痰ケアなどリハビリの介入は必須です。リハビリを行うことはもちろんですが、患者さんに合わせてベッド上での良肢位や食事摂取時の体制、車いす移乗の仕方などをリハビリの方に教えていただいて、患者さんが安楽に過ごせるように努力しています。栄養面や薬剤使用に関しても、管理栄養士や薬剤師に相談しながら適切な対応ができるよう常に協力しあっています。

また障害者施設等一般病棟は長期入院というイメージがあるとは思いますが、患者さんの状況に応じて、施設や自宅退院が可能な患者さんもおられます。ご本人・ご家族の意向も聞きながら、主治医、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフとともに退院支援をしています。

病院での生活を余儀なくされた患者さんやご家族の方が、「この病院でよかった」と思っていたらいいように、これからも看護スタッフや多職種と協働しながら、質の良い看護を提供していきたいと思っております。



発達障害に最適な支援を

Feature

小児療育センターが提供します

●発達障害に対して最適な支援を行います

発達障害という言葉が最近よく聞かれるようになったのではないかと思います。NHKで特集が組まれたり、ドラマの登場人物に出てきたりと、一昔前に比べると一般的になってきたのではないのでしょうか？小児療育センターでは、医師による診察や心理士・作業療法



小児療育センター長
今村小児科部長

士・言語聴覚士による詳細な検査を実施することで、専門的・医学的視点で子どもの特性をまず捉え、ご家族や本人の困りの原因となっているものを明らかにします。また、苦しさや困りだけでなく本人の得意な面も明らかにし、日常生活でどのように長所を活かせるかも考えます。

地域の中でその子がその子らしく生活できるよう、それぞれの発達段階に応じて必要な支援を行っていきたくと考えています。

●発達障害の種類について

「障害」という言葉の印象から、「特別な人たち」「自分たちと関わりのない人たち」という印象を持たれるかもしれませんが、文部科学省の調査(2012年)では、通常学級に在籍している小学生の中で発達障害をもつ小学生は、全体の6.5%に及ぶとの結果が出ています。40人学級だと2～3人が該当することになります。また、診断基準は満たさなくとも「特性はある」という子どもたちもいます。案外身近な存在であり、もしかしたら自分も当てはまるかも？ということもあるかもしれません。

さてDSMという米国精神医学会が定めた精神障害の診断と分類の基準がありますが、様々な変遷を経て、現在は2013年に発表されたDSM-5が最新となっています。この分類はあくまでアメリカで作成されたものなので国際基準ではありませんが、その考え方は日本の発達障害を語る上でも重要と言えます。

DSM-5の中には、神経発達症群(従来の「発達障害」に相当する障害群)の中に主なものとして、知的能力障害、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、コミュニケーション症群、限局性学習症、運動症群があります。以下に定義を簡単に記載します。

<知的能力障害>

DSM-5には知的能力障害についてIQ(知能指数)値の目安が記載されていません。必要とされる支援のレベルを決めるのは適応機能であるとし、概念・社会性・実用性の3領域が示されています。

<自閉スペクトラム症(ASD)>

ASDの原因はまだまだ不明で、原因に基づく診断はできません。そのため、行動や症状(3歳前から見られる)から医師が判断しますが、基準としては大きく「対人的コミュニケーションおよび対人的相互交流の障害」と「限局された反復する行動や興味」の2つがあります。ごく簡単に特徴を言うと、他者に興味がない、共感を求めない、表情が乏しい、単純な行動を繰り返す、オウム返しをする、こだわりが強い、感覚に対して鈍感すぎる/過敏すぎる、などが挙げられます。

<限局性学習症>

「LD」として医学領域でも教育領域でも広く認知されていますが、二者が示す定義には若干の違いがあります。医学領域では、全般的な知能の遅れがないが、読字・書字・計算力の3領域に障害がある場合に診断されます。



<注意欠如・多動症(ADHD)>

発症時期が12歳未満で、「不注意」「多動」「衝動性」の3つが基本症状となります。同じことで繰り返し叱責されても行動を改めることができませんが、それはどうすればよいかを理解していないためではなく、この後どうなるかの予測をして今の自分の行動、感情、思考、注意、時間管理をコントロールする力が未発達なためです。こういった点が理解されにくいので、「わがままな子」「乱暴な子」「どうしようもない子」といった誤解をされがちです。

<コミュニケーション症群>

コミュニケーション障害と聞くと、最近ネットで目にする「コミュ障」を連想されるかもしれませんが、医学的には、言語症(言葉の遅れ)、語音症(発音の誤り)、吃音、社会的(語用論的)コミュニケーション症(言葉の意味そのものは理解できて相手や状況に合わせた使い方ができない)とされています。

<運動症群>

発達性協調運動症(DCD)、常同運動症、チック症群から構成されています。最近聞かれるようになったDCD

は、以前は不器用児症候群と言われていました。筋力低下などを引き起こす原因疾患がないにもかかわらず、その年齢にふさわしい動作(ボールを投げる、ペダルをこぐ、お菓子の袋を開ける、書く、定規を使う、など)ができない状態です。

●必要な支援を一緒に考えていきましょう

これらは1人の子どもの中でいくつかを併せ持つことも多く、複雑に絡み合っています。発達障害領域のリハビリテーションにおいて、診断をつけることがゴールではありません。診断名をはっきりすることで「今までの育てにくさや通じ合わない感じの原因はこれだったのか」とストンと腑に落ちる保護者もいれば、「絶対発達障害ではない、個性が強すぎるだけ」と否定から始まる保護者もいらっしゃいます。そういった保護者の心の動きに寄り添いながら、その子に必要な支援を考えていくことをスタートとしています。



発達障害に最適な支援を小児療育センターが提供します

特集
2

予約から初診当日までの流れについて

1 予約

TEL：086-282-6001（直通）

電話の際、「発達障害の診察について」とお伝えください。

電話対応時間

[曜日]月・火・水・金・土

[時間]9:00～12:00、13:00～16:30

【電話回線が混雑している場合】

* お手数ですが時間をおいてかけ直してください。

■電話での質問事項（10～15分程度かかります）

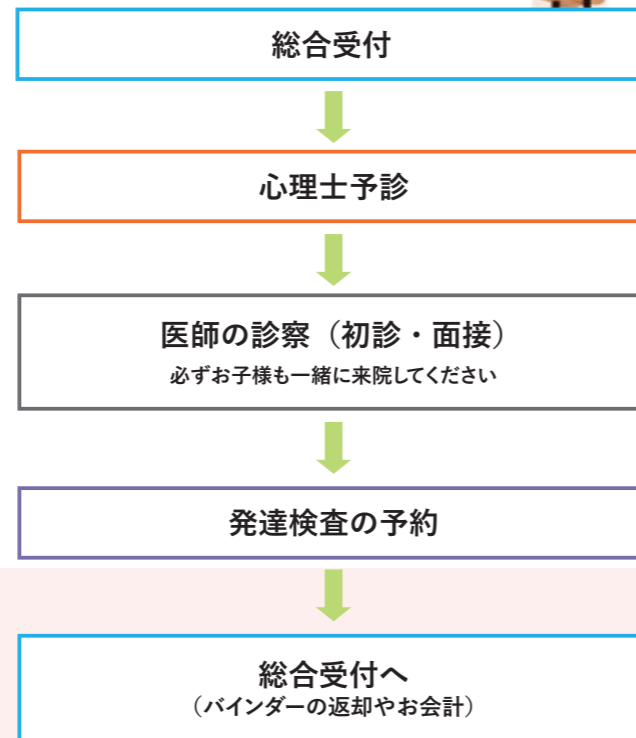
- ・ 受診理由（困りや心配な点）
- ・ 他院の受診履歴（他機関での発達検査履歴を含む）
- ・ お子さんの名前
- ・ 生年月日・年齢・学年
- ・ 連絡先
- ・ 希望の予約日と時間
 - * 毎週火曜日と水曜日の午前中に設定しています。
 - * 時間は電話対応時にお伝えします。

2 初診当日

■お持ちいただくもの

- ・ 保険証
- ・ 親手帳
- ・ 問診票などの書類一式（予約時にご案内します）
- ・ 乳幼児受給者証（お持ちの方のみ）
- ・ 紹介状（お持ちの方のみ）
- ・ 過去の発達検査結果（お持ちの方のみ）

※初診当日の流れ



※当日は移動・待ち時間に合わせて2時間程度を要します。お子さまの体調の調節をよろしくお願いたします。

※待ち時間が生じるため、お気に入りのおもちゃ等の持参をおすすめします。

※予約時間に遅れないようお気をつけください。当院は国道2号線沿いに立地しているため、平日朝は道が大変混雑します。時間に余裕を持ってお越しください。

NEWS 1

当院で行っているオーバーナイト透析が新聞に掲載されました

昨年10月23日付けの朝日新聞に、当院が行っているオーバーナイト透析について、その特徴や患者さんのコメントが掲載されました。なお、オーバーナイト透析については、以前他紙にも紹介されたこともあり、認知度も一層進んで急速に普及すると予想されます。



朝日新聞社から取材を受ける透析センターのスタッフ

NEWS 2

研究所の松山室長が朝日新聞の「人ひと」欄に登場しました

今年の1月13日に、研究所分子遺伝部門の松山室長が、朝日新聞の地域で活躍している人を紹介する「人ひと」欄に登場しました。内容は、主に働き方についてで、仕事の効率を高めることで、ワークライフバランスをうまく取りながらも実績を残していることが紹介されています。働き方改革が重要視されている昨今、大いに参考になる記事ではないでしょうか。



朝日新聞社から取材を受ける松山室長

NEWS 3

真鍋院長が「わが街健康プロジェクト」の第22回講演会で講演

2月1日には、院長の真鍋がイオンモール倉敷で開催された「わが街健康プロジェクト」の第22回講演会において「幸せに長生きできる考え方と生活習慣」というタイトルで講演しました。当日は、真冬の寒さにもかかわらず大勢の方が参加され、会場は早々に満席となりました。なお、講演の様子は3月13日に倉敷ケーブルテレビで放映されました。



「わが街健康プロジェクト」で講演する真鍋院長

NEWS 4

櫻間医師らが開発した手術器具が山陽新聞1面に紹介されました

2月5日の山陽新聞1面に外科部長の櫻間らが開発したカフ型カテーテル事前設置器具が、その特徴や有用性と共に紹介されました。この器具は、人工透析をされている患者さんのカテーテル手術の際に用い、留置ルートと出口部を正確に把握することができるので安全に手術を行うことができます。今後広く使われるようになると思われます。



櫻間医師らが開発した手術器具

予 定 表 外 来 診 察

Outpatient care schedule

受付時間 8:30~12:00 (再診の方は、再来受付機にて午前8時より受け付けています)
13:30~17:00

休診日 木曜・日曜・祝日
(急病の場合は、あらかじめ電話で対応可能かどうかのお問い合わせをお願いいたします)

		月	火	水	木	金	土	
内科	午前	糖尿病・肝臓 (生活習慣病)	真鍋 康二 (総・肝・糖・腎)	大森 一慶 (総・糖・腎)	荒木 俊江 (総・糖)	休 診	真鍋 康二 (総・肝・糖・腎)	真鍋 康二 (総・肝・糖・腎)
			大森 一慶 (総・糖)		池田 弘 (肝)		高井 舞子 (総・糖)	荒木 俊江 (総・糖)
		腎臓	福島 正樹 (腎)(紹介・初診のみ)	—	福島 正樹 (腎)		福島 正樹 (腎)	福島 正樹 (腎)
		消化器	藤本 さおり (総・消)	西山 仁樹 (消)	山本 直樹 (総・消)		岡 優子 (総・消)	岡 優子 (総・消) 山本 直樹 (総・消)
	循環器	—	近藤 直樹 (循)	—	—	—		
★総:総合内科 腎:腎臓 肝:肝臓 糖:糖尿病 消:消化器 循:循環器 ★健診は、西山仁樹(月・火・水・金・土)が担当しています								
午後	一般外来	交代医師	交代医師	交代医師	休 診	交代医師	交代医師	
	専門外来 (予約)	(肝臓・ 生活習慣病) 池田 弘	(糖尿病・腎臓病) 真鍋 康二 荒木 俊江	—		—	—	
名誉院長外来	午前	—	腎臓・内科一般 瀧 正史	—	休 診	—	—	
小児科	午前	瀧 正史	虫明 亨祐	虫明 亨祐	休 診	虫明 亨祐	瀧 正史	
		虫明 亨祐	今村 昌司	今村 昌司		今村 昌司	虫明 亨祐	
午後	交代診療 予防接種	交代診療 予防接種	交代診療 予防接種	交代診療 予防接種		交代診療 予防接種		
小児療育	午前 完全予約制	今村 昌司	川田 珠理	川田 珠理		今村 昌司	今村 昌司	
	午後 完全予約制	今村/河野	川田 珠理	川田/赤池	今村/川田	今村 昌司		
★小児療育は初診の方は完全予約制(火曜・水曜午前中)です。予め電話での予約をお願いします。 他の曜日に来院されてもお帰りいただく場合がございます。ご了承下さいませようお願いします。								
外科	午前	櫻間 教文	平松 聡	平松 聡	休 診	平松 聡	平松 聡	
ダイアライ シスアクセス 専門外来	午前	櫻間 教文	櫻間 教文	櫻間 教文		櫻間 教文	櫻間 教文	
★ダイアライシスアクセス専門外来は、完全予約制です。予め電話での予約をお願いします。 ★時間外でも可能な限り対応いたします。電話でお問い合わせ下さい。								
泌尿器科 (予約)	午後	—	—	—	休 診	岡山大学	—	
皮膚科	午後	—	太田 知子	太田 知子	休 診	—	—	
眼科	午後	第4月曜日 岡山大学	—	—	休 診	—	—	

Information



重井医学研究所附属病院

〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL 086-282-5311 / FAX 086-282-5345
<http://www.shigei.or.jp/smrh/>

関連施設
 しげい病院
 重井医学研究所附属病院
 重井医学研究所
 岡山しげい訪問看護ステーション
 岡山しげい居宅介護支援事業所

倉敷しげい訪問看護ステーション
 倉敷しげい居宅介護支援事業所
 重井薬用植物園
 倉敷昆虫館
 健康増進施設 はあもにい倉敷

